大会長講演



「運動器理学療法への動機付けと自信を教育する」ために

第14回日本運動器理学療法学会学術大会大会長

赤坂 清和

第 14 回日本運動器理学療法学会学術大会のテーマを「運動器理学療法への動機付けと自信を教育する Educate Your Motivation and Confidence for the Success」とした．理学療法士の専門分野の中でも多くの会員を擁する運動器理学療法は，理学療法全体に大きな影響力を持つ．本学術大会では，過去の学会で高い評価を得た若手を中心に講師やシンポジストとしてご登壇いただく機会を設けた．これにより，運動器理学療法における現状を明確に把握し，近未来への道程が見えてくると考えたからである．また，海外招聘講演として，豪州の Peter O'Sullivan 教授と韓国の Suhn-Yeop Kim 教授にご講演いただく．理学療法が学問として，保健医療サービスとしてグローバルな広がりを持つ以上，世界における理学療法の動向について学術大会にて学ぶことは極めて重要であると考えている．特別講演については，整形外科は運動器理学療法と最も関連が深いため，北海道大学の岩崎倫政教授に，理学療法士にとって重要な身体機能評価と整形外科介入，術後理学療法の重要点についてご講義いただく．また，日本における運動器理学療法及び基礎理学療法の礎を築いてきた関西医科大学の市橋則明教授には，筋機能に着目した運動器理学療法の臨床及び研究についてご講演いただく．また教育講演として，本学会をリードする 12 名の講師にご講演を依頼している．特別企画シンポジウムとしては，運動器理学療法士の現状と将来について，日本理学療法士協会の斉藤秀之会長をはじめとする海外事情や教育制度に詳しい講師，学際領域として作業療法士の講師，海外の Physical Therapy の臨床で活躍する講師らを交え，運動器理学療法の未来について語り合う機会を設けた．この他にも，39 名の講師による 8 件のシンポジウム，7 名の講師による初日のオープニングセミナー，および 6 名の講師による 2 日目のモーニングセミナーを企画している．その他に複数のランチョンセミナー，生成 AI とエビデンス構築に関する 2 件のワークショップ，研究相談コーナーと学術雑誌編集委員会コーナーの 2 件の特別企画を用意した．大会長講演では，本学術大会のこれらの企画について，参加者の皆様にご紹介する機会としたいと考えている．

略歴

1990 年　金沢大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業
1990 年　整形外科米澤病院
1993 年　カンザス州立 Wichita State University 卒業
1994 年　辰口芳珠記念病院
1995 年　緑ヶ丘病院
1996 年　東北医療福祉専門学校
1997 年　東北大学大学院医学系研究科修士課程修了
1997 年　古川市立病院
2000 年　東北大学大学院医学系研究科博士課程修了（障害科学博士）
2000 年　埼玉医科大学総合医療センター
2003 年　埼玉医科大学短期大学部理学療法学科講師、助教授を経て
2006 年　同教授
2007 年　埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科教授
2010 年　埼玉医科大学大学院教授